

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎志願者数が多かった大学

□志願者数最多は、旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大

〔志願者数上位10大学〕

大学	2022年度			2021年度			志願者 増減数	志願者指数	
	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率		2022年度 ／ 2021年度	2021年度 ／ 2020年度
大阪公立大	2,447	13,188	5.4	2,543	13,789	5.4	-601	96	100
千葉大	2,069	10,631	5.1	2,069	11,565	5.6	-934	92	113
神戸大	2,301	10,123	4.4	2,301	10,236	4.4	-113	99	110
北海道大	2,392	9,516	4.0	2,442	8,621	3.5	+895	110	88
東京大	2,960	9,507	3.2	2,960	9,089	3.1	+418	105	98
九州大	2,243	7,692	3.4	2,251	7,629	3.4	+63	101	105
京都大	2,649	7,570	2.9	2,658	7,424	2.8	+146	102	96
大阪大	2,878	7,501	2.6	2,878	6,991	2.4	+510	107	94
横浜国立大	1,332	7,300	5.5	1,329	4,189	3.2	+3,111	174	55
広島大	2,015	6,890	3.4	2,015	6,111	3.0	+779	113	92

※志願者指数は前年度の志願者数を100とする指数

※大阪公立大の2021年度以前は旧大阪市立大と旧大阪府立大の合計

上の表は、文部科学省発表の最終確定値、大学全体の志願者数が多かった国公立大の上位10大学をまとめたものです。志願者数が7,000人以上だった大学は9大学で、前年度と同数でした。前年度は10大学中7大学が減少だったのに対し、今年度は7大学が増加と対照的でした。10大学の中で、第5位の東京大、第8位の大阪大はいずれも前期のみの募集です。第7位の京都大の後期は、特色入試として実施の法学部のみの募集です。

2022年度入試で志願者数が最も多かったのは、旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大で、募集人員は前年度の旧2大学合計よりは96人減少したものの、公立大としては国内で最大規模の大学になりました。志願者数は前年度の旧2大学よりは601人(96)とやや減少しましたが、1万3千人を上回りました。

第2位の千葉大は、前年度まで6年連続志願者数が最多の大学でしたが934人(92)減少しました。しかし、それでも2010年度から13年連続で志願者数が1万人を上回りました。

第3位の神戸大は、113人(99)の微減でしたが、志願者数が2年連続で1万人を上回りました。大都市圏の最難関大に次ぐ難易度の大阪公立大、千葉大、神戸大がいずれも前年度よりも志願者数が減少したのは、共通テストの平均点ダウンの影響がいわゆる準難関大に大きかったことを示しています。

第4位の北海道大は、前年度はコロナ禍の影響により遠距離移動を回避する動きから10%以上の志願者数減少でしたが、この反動もあって3年ぶりの増加でした。しかし、志願者数は1万人には届きませんでした。

第9位の横浜国立大は、前年度コロナ禍対策として個別試験を中止し、共通テストの成績を中心に選抜を行いましたが、これへの敬遠傾向が強く、志願者数が大きく減少しました。今年度は2020年度入試以前と同様に個別試験を実施し、3,111人(174)の大幅増加となりました。しかし、2020年度の志願者数7,581人には及ばず、準難関大への共通テスト平均点ダウンの影響があったことがわかります。